



東印度飢饉救濟論及工業進步ノ景況

3498

木



東行 度飢饉救濟論

總論

日分 英國ノ管下ニ屬スル印度ノ人員ハ殆ント貳  
 億五千萬アリサレハ政府ニ於テ此衆多ノ人ノ為  
 メニ謀ルヘキ緊要ノ点ハ幸福ヲ普ネカラシメ百  
 エヲ進マシムルヨリ他ニ術ナカルヘシ然レモ此  
 事ハ議論數派ニ分レタルモノナレハ博識高才ノ  
 士ト雖モ能ク其利害ヲ説キ之ヲ審断スルトハ必  
 ラス能ハサルヘシ故ニ宜ク其一科ニ明ラカナル  
 モノ、議論ヲ採ルヘキナリ因テ博ク諸大家ノ明  
 説ヲ集メタリレカ今己ニ一百ニ迫カラントス然  
 レモ皆彼此ヲ照較シ丁寧反覆以テ之ヲ論究スル  
 ニアラヌハ確乎タル決議ヲ得ルヲ難シ

大正十一年  
大隈侯爵邸

吾輩ハ先ツ表日印度ニ發シタル飢饉ノ災害ヲ骨  
子トシテ此全躰ノ議論ヲ發セントスサリナカラ  
其起端ハ姑ラク闊キテ專ラ其成果ノミヲ取テ之  
ヲ説クヘシ夫レ飢饉ナルモノハ人カヲ以テ能ク  
之ヲ防禦スルヲ得ヘキカト今此問ニ由テ之ヲ考  
フルキハ宜ク先ツ印度ノ氣候ト雨露トハ其耕作  
ニ如何ナル影響ヲ来スヤヲ探知セスニハアルヘ  
カラス且其影響タル甚タ大ニシテ獨リ耕作ノ利  
害ト地租ノ得失トニ干涉スルノミナラス將ク何  
ノ故ニ各地方ニ於テ各水利堤防ヲ要スルヤヲ論  
究セサルヲ得サレハ更ニ別項ヲ設ケ一マニ之ヲ  
詳論シ傍ラ土蠻政府カ水利ノ事ニハ如何ナル智  
識ト如何ナル進歩トニ因テ何等ノ處置ヲ施セシ

カヲ記カスニハアルヘカラサルナリ  
此問題ニ就テ更ニ歩ヲ進メテ之ヲ推考スルニ飢  
饉ノ災ヲ被リタル地方ハ貳百有餘州ニ近ク其一  
州ノ廣サタル英蘭ニ比スルニ尚大ナリト雖モ已  
ニ水利ヲ修メ漕河ノ便ヲ開キテ所ハ纔ニ能ク之  
ヲ防禦スルヲ得ラル、カ如此此ノ如キ災ヲ防カ  
ンニハ姑息ノ修理ヲナサンヨリハ寧ロ鄭重ノ扞  
禦ヲナスニ若カサルヘシサリナカラ曩日ニ英國  
政府法教ヲ弘メ以テ此災害ヲ防カントセシカト  
モ曾テ効驗アラサリシヲ觀レハ防禦ノ容易ニ為  
スヘカラサルヲ知ルニ足レリ嗚呼今日ノ形狀ニ  
隨テ荏苒晷影ヲ過サハ看々數百萬無辜ノ人民ヲ  
シテ慘クシ海濱ニ經ヒレシメ巨万ヲ物産ヲ空ク

地中ニ埋レムルナルヘシ豈浩歎ノ至ナラスヤ  
然ハ則チ此ノ如キ災害ヲ防カニ一如何田圃灌溉  
ノ事ヲ施スヨリ他ニ策アルヘカラス蓋シ此策ヲ  
ル獨リ水利ニ便アルノミナラス施惠的ノ土工ニ  
シテ乃チ飢饉ノ災アル時ニ方テ衆工夫ヲ備使シ  
貧民ヲシテ事業ヲ得セシメ以テ一時ノ急ヲ救フ  
ノ妙アリ然ルニ議院ニ於テハ灌溉ノ事ヲ論スル  
ニ方テ此旨意ヲ遺却シタルカ如キハ實ニ人民ノ  
為メニ痛ムヘキナラスヤ今又灌溉ノ事ト他ノ  
工事トヲ較フレハ灌溉ノ利益ヲ有セルト工事ノ  
得テ及フ所ニアラサルヲ覺フ印度ニ於テ嘗テ英  
政府カ一大土工ヲ興シ巨万ノ額ヲ費ヤセシトア  
リ今其大畧ヲ計フレハ一千八百七十二年ニ至ル

迄五ニ五百里<sup>英里</sup>ノ鑄路ヲ布クカ為メニ費ヤシタ  
ルト壹億万磅壹万四千ノ兵負ヲ備ヘ之ニ給スル  
ノ諸品ニ費ヤシタルト凡ソ十年間ニ一千万磅其  
兵卒往復ノ運漕ニ備ヘタル運送船及ヒ之ヲ修理  
スル事ト甲鑄船ノ造船塲等ニ費ヤシタルト三百  
万磅又印度ノ英領トナリシ以來灌溉ノ事ニ費ヤ  
シタルト一千万磅其外大小ノ費額甚タ多ク就中  
其大ナルモノヲ詳細ニ論スレハ錢道建築ノ費用  
壹億万磅ハ諸品買入レノ為メニ其半額ヲ英國ニ  
於テ費ヤシタリ此巨大ノ費用果シテ何等ノ効ヲ  
奏セ<sup>ル</sup>ソ抑、斯ル財政上ノ成果ヲ問ハントシテ此  
ノ如ク之カ利害得失ヲ論スルハ亦理ノ當ニ然ラ  
シムル行ハ<sup>ル</sup>スヤ印度中ニハ東印度鑄道ト稱ス

ルモノアリ其盛ナルト他ノ鑄道ノ及フ所ニアラ  
ス其利益モ亦少カラス乃之ヲ計ルニ一年五分ノ  
得益アリシト二回ナリキ又重墨利加ノ戦争起ル  
ニ方テ俄カニ綿花及其他貿易品ノ供給ヲ大ニ増  
加シタリ又一千八百七十四年ノ「ベンガル」地方飢  
饉ノ際通常ノ運賃ヲ半價ニシテ数千噸ノ穀類ヲ  
輸送シ速カニ其飢饉ニ陥ホルヘキ人民ヲ拯ヒタ  
リ其費用タル六百五十万磅ノ多額ナリキ即チ是  
レ印度ノ歴史上最初ノ救済トス斯ク數般ノ事ヲ  
ナシタリシモ其益スル所僅少ニシテ其損シタル  
所ハ貳千万磅ノ多キニ至レリ若シ曩ニ錢道築造  
ニ費ヤセシ壹億万磅ヲ以テ灌溉ノ事ニ費ヤシタ  
ラシニハ今日ニ其効ヲ觀ル言ヲ誤タサルヘシ嗚

呼因迫極リタル印度ニ毎歲二百万磅ヲ課シ之ヲ  
鑄道ニ費ヤシテ其民ヲ苦マシム英政府ハ謂フヘ  
シ苛酷ナリト  
凡ソ有益ノ工事ヲ興サンニハ種々問題アリト雖  
モ就中貧國ニ鑄道ヲ築ク如キハ一大要件ニシテ  
最モ注意セスンハアルヘカラサル所ナリ然ルニ  
當今ニ至ルモ猶ホ議院ノ此ニ注目セサルハ歎ス  
ヘキトナラスヤ印度ノ如キ地方ニ於テハ錢道ヲ  
築クト灌溉ノ事ヲ興スト孰レカ利ナルヤ灌溉ノ  
益アルト論ヲ誤タサルヘシ試ニ觀ヨ旱魃ノ時ニ  
方テハ放水ノ助ケヲ為スヲ得ニキカ灌溉ノ事ヲ  
務メテ穀類ヲ産スルカ如ク錢道ヲ以テ之ヲ生ス  
ルトヲ得ニキカ印度ノ收穫ハ錢道ノ為メニ増加

シタリヤ灌溉ト銚道ト孰レカ能ク飢饉ノ災ヲ防  
クニ効アリマ以上ノ問題一トシテ可トスヘキモ  
ノアサルヘニ畢竟銚道ノモタル物産ト人民  
トヲ載セ一時間ニ二十里ヲ運輸スルノ便アルノ  
ミナリ然ルニ幸ヒ吾輩溝渠ヲ開キテ大ニ灌溉ノ  
利ヲ通シ漕河ヲ通シテ灌溉ノ事ト洪水防禦ノ事  
トニ備ヘタリレカ其賞ハ僅ニ鐵路建築費ノ三  
分ノ一或ハ四分ノ一ニテ足レリ運賃モ亦其半額  
乃至ハ其以下ニテ輸送スルヲ得ラル、ナリ是猶  
「マダラス」ノ「テ」ルタニ於ケルカコトレサレハ印度  
ノ如キ地ニ之ヲ開クハ現時ハ無論将来ニモ尚  
ホ適當シタル工事ト謂ツヘシ又經濟上ヨリ之ヲ  
視ルモ銚道建築ノ如ク税額ヲ増シ或ハ國債ヲ募

ル等ノ憂アルトナシ英ノ如キ盛大ナル國スラ銚  
道ヲ築カサルノ前ハ狹小ナル漕河ヲ開キ以テ運  
輸ノ便ニ充テリト又或説ニ曰ク印度全國ニ銚道  
ヲ布キ一時間四十里<sup>英里</sup>ヲ馳スルノ速力ヲ以テ千  
里ノ遠キヲモ隣里ニ往ク如クナラシメハ必ラス  
一大都府ヲナサシメント嗚呼是レ何等ノ愚説ソ  
ヤ夫レ印度ノ如キ氣候他ニ異ナルノ地ハ最モ灌  
溉ノ事ヲ務メスニハアルヘカラス何トナレハ灌  
溉ノ利タル其國ヲ殷富ナラシムルト少カラサレ  
ハナリ元來貧國ニ銚道ヲ築クカ如キハ華侈ト謂  
フヘキナリ然レ已ニ殷富ヲ致シ其當然ノ位置  
ヲ占ムルニ至テハ之ヲ築クヲ適當ナリトス或人  
言ヘルアリ曰ク貧國ニ銚道ヲ築クハ宛モ乞兒ニ

馬車ヲ與フルカ如ク又餓者ノ食ヲ求ムルニ石ヲ  
與フルニ似タリト今夫レ實地ノ景況ニ就テ之ヲ  
觀ルニ僅カニ數里ノ鐵路アリテ一歲ノ間二三個  
月綿花ヲ運輸スルノミニレテ既ニ之ヲ終ルノ後  
ハ復タ他ニ送ルヘキモノナク忽チ廢業シタルモ  
ノアリキ若シ中央ノ大鐵路ニシテ此ノ如キ衰耗  
ヲ生スルキハ毎年二百万磅ノ損耗ヲ招クナルヘ  
シ然ルニ現時ノ政府ハ更ニ又軍用ノ大鐵路ヲ築  
キ以テ魯兵ノ侵襲ヲ防カントスルノ勢アリ果シ  
テ此舉ヲ實地ニ施行セシムルニ至テハ人民ハ如  
何ナル苛稅ヲ課セラル、ヤ知ルヘカラス實ニ痛  
歎ニ堪ヘサルナリ印度ノ執政家ハ孰レモ議院ノ  
議ニ與カル者ト否トヲ問ハス此建築ノタメニ國

債ヲ募ルトハ皆敢テ服セサルナリ然ルニ政府ハ  
却テ反對ノ說ヲ抱キテ必ラス之ヲ果サントス然  
レモ政府モ亦此舉ハ只侵襲ヲ防クノ外決シテ他  
ニ利益ヲ計ルニアラサレハ必ラス若干ノ損失ヲ  
蒙ムルヘキヲ知レルナリ抑、政府ノ損失ハ即チ人  
民ノ損失ナルトハ言ヲ跋タスレテ知ルヘシ吾輩  
ハ實ニ公明正大ノ處置アラントヲ願フナリ夫レ  
目今印度ノ工事ニ関シテ英政府ノ之ヲ處置スル  
ハ財政上最モ困難ナル所ト雖モ議院ハ恬トシテ  
之ヲ顧ミサルモノ、如シ然レモ一議士ハ印度ノ  
稅法ニ事ニテ工部省ニ對シ頗アル抵抗シテ一大  
變革ヲナサントヲ望メリ吾輩ハ懇ニ請フ租稅ヲ  
増シ或ハ國債ヲ増スカ如キ處置ナカラントヲ元

來大錢路ヲ築カントスルハ抑、未ニシテ魯兵ノ侵襲ニ先ツテ之ヲ止メ而メ務メテ貧困ヲカラシメカヲ極メテ智識ヲ廣メシメ才能ヲ發セシメ以テ鴻益ヲ起シ以テ諸業ヲ盛ニシ且以テ人民ヲ國政ニ與カラシメ又確乎タル規律ヲ立テ國ヲ愛スルノ人民ヲシテ各其所ヲ得セシメ專ラ仁惠ヲ主トシ苟モ壓制ナカラシムルノ優ルニ若カサルナリ夫レ政府ニシテ民ノ望ミナキハ不信ト貧弱トヲ生スルノ基礎ニシテ榮譽ト強壯トハ終ニ地ヲ掃テ消エヘシ豈慎マサルヘケンヤ

### 印度國工業進步ノ景況

#### 總論

廣ク萬國ニ觀ルニ、印度國ノ如キ貧薄ナルモノハ未タ嘗テ聞見セサル所ニシテ、常食ノ價尙介ニ付僅ニ半錢ヲ貴クスルヲアレハ、數萬ノ人民忽チ飢寒ノ苦ニ陥リテ、殆ト救フヘカラサルカ如クニナルヲアリト云、又ベンガル<sup>各州</sup>ノ如キハ、土地豊饒ニシテ、人家頗ル稠密ナルモ、一介年或ハ二介年旱魃スルキハ、亦凍餒流離ノ難ヲ免カル、一介能ハサルナリ、サレハコソ政府ハ之ヲ救済スルヲ急務トナシテ、之カ為ニ歲入ノ内六百五十萬磅ノ多キヲ費マシタリ、且英人并ニ印度人中ノ仁心ナル者モ亦之ニ救助ヲ與ヘタリ、抑、貧困ナル此ノ如キ人民ハ



工業ノ以テ生ラ活スル所ナクンハアルヘカラサ  
ルモソナルニ、數萬ノ人員壹ニ耕作ノ一途ヲ務ム  
ルハミナレハ、常ニ斯ル困弊ニ艱ムモ亦宜ナラス  
ヤ、然ハ則チ、此貧民ヲ救済セント如何、耕耘ノ法ヲ  
改良シ、其土地ニ相通スヘキ數種ノ工業ヲ開キ、以  
テ救済ノ道ヲ立ツルヨリ他ニ術ナシ、是ヲ以テ政  
府最モ此救済ノ一ヲ務メタリ  
初メ政府ニ於テ茶ノ種藝ニ着手シ、其功全ク成ル  
ニ至テ之ヲ人民ニ賣渡シタリシカ、目今ニ至テハ  
其茶概ネ歐人ノ手ニアリ、乃チ一千八百七拾二年  
印度ヨリ輸出シタル茶ノ惣額ハ、一千七百萬斤、  
以上ニ及ヒタリ、而モ且毎歲百萬斤以上ノ増殖ア  
リト云、又畿那ヲ種藝シテ多ク幾尼涅ヲ得タリ、是

亦數年ナラスシテ人民ノ有スル所トナルヘシト  
信ス、斯ル形勢ナルヲ以テ政府ハ耕作ト工業トノ  
郷導者タラサルヲ得サルナリ、故ニ此國未曾有ノ  
新工業ヲ開キタリシガ其費用甚タ大額ニ登リテ、  
為メニ非常ノ困難ヲ生シタルト數回ニシテ、終ニ  
ハ其困難此事業ノ妨害ヲナシタルトアリタルナ  
リ、サリナカラ專ラ之ヲ人民ニノミ委ネテ政府曾  
テカヲ出サ、ル片ハ、必ラス國歩ヲ退却セシムル  
ナルヘシ、見ヨヤ近來歐洲ノ人民政府ノ力ヲ藉ラ  
スシテ工場ヲ開クト雖モ、能ク成功シタルモノ鮮  
ク、今存スルモノ僅ニ五十箇所ニ過キサルヲ、若シ  
政府初メヨリ之ヲ助勢シタランニハ、今日ハ必ラ  
ス五百箇所以上ノ工場ヲ見ルヲ得、且人民ノ歲入

モ増加シ、隨テ租税モ大額ニ登リタルナルヘシト  
信スルナリ、是ニ由テ之ヲ考フルニ、凡ソ此ノ如キ  
國ニ於テハ、政府宜ク自カラ之カ郷導者トナリテ  
新業ノ基礎ヲ立テ、數回之ヲ經驗シ之ヲ研究シ、以  
テ其缺漏ヲ修補シ、永ク之ヲ維持スルヲ當務トス  
ヘキナリ、故ニ政府ハ人民ノ事務ニ媒介ヲナス  
ヲ止メ、更ニ耕作ノ進歩ト新規製造ノ用與トヲ務  
メ、能ク其成功ニ至ル迄ハ日夜拮据勉勵トサス  
ハアルヘカラス、曩ニ佛國ニ於テ甜菜ヲ以テ砂糖  
ヲ製シタル時、失錯ヲナセルヲ數ナリシカトモ、政  
府ノ助勢アルヲ以テ遂ニ能ク其功ヲ奏シタリ、近  
來ニ至テハ、歐洲各國モ之カ為メニ益ヲ得ルヲ許  
多ニシテ、其一歳ノ產出額百萬磅以上ニ及フト云

是實ニ一千八百年ノ頃迄ハ、政羅巴ニ一斤タリト  
モ此品アルヲ聞カサル所ナリキ  
魯西亞政府ハ製鐵ノ業ヲ盛ンナラシメンカ為メ  
ニ、國內ニ於テ製スル所ノ鐵條ニ、量目每一頓ニ四  
磅宛ノ恩賞金ヲ與フルヲ策ノ最上ナルモノトセ  
リ、又米國政府カ保護政策ヲ設ケテヨリ而來其進  
歩ヲ為セル景況ヲ見ルヘシ、彼レ乃チ内國ノ諸業  
ヲ勸勉トサンカ為メ、英國ヨリ輸入スル物品ニ貳  
割五分ヨリ三割ノ保護税ヲ課シタリ、抑、已カ國ヲ  
愛シ、已カ同胞ヲ憐ミ、之カ利益ヲ營ミ、之カ繁榮ヲ  
圖リ、以テ相生濟センヲ欲スルハ、人情ノ止ムヘ  
カラサル所ノモノナラスヤ、英國ノ如ク古國ニシ  
テ諸業ノ已ニ用進シタル國ハ然ルヲナキモ、新建

見ヨ均シク英國ノ管  
下ニ生息シタル英人  
スヲ既ニ己ノ生國ヲ  
去テ其移住シタル地方  
ヲ以テ墳墓ノ地ト定メ  
ルハ則チ其保護税ノ  
旨趣從ニ彼ノ國ニシテ  
以テ英國ヨリ輸入スル  
綿布其他ノ物産ニ  
輸入税ヲ課シ己ノ移  
住地ニ生産ヲ保護スル  
ヲ計ルニテラスヤ

國ニ於テハ必ラス一時政府ノ保護ナクンハアル  
ヘカラサルナリ  
夫レ荷業タリトモ、新タニ之ヲ開カントスルハ、  
必ラス政府ノ保護ナクンハアルヘカラサルヲ、猶  
ホ嬰兒ノ成長スルニ及フマテ父母ノ鞠育ナクン  
ハアルヘカラサルコトク、政府ノ保護ナクンハ其  
業盛大ニ至ルヲ能ハサルモノナリ、殊ニ印度ノ貧  
薄ノ如キハ、又他ニ比スヘキモノナク、加フルニ無  
學ノ徒多ク、更ニ新業ヲ興スノ志慮モナク、只管農  
業ノ一途ヲノミ務ムルヲ以テ斯ル國ノ政府ニ於  
テハ自カラ之カ郷導者トナリテ保護政策ヲ設ケ、  
以テ工業ヲ勸勉スルヲ務トナサスンハアルヘ  
カラス、然ルニ憐ムヘシ印度政府ニ於テハ、充分ニ

此事ヲ行フヲ得サルナリ、何トナレハ、印度ノ人  
民ハ其君主ノ管轄ヲ受クル能ハスレテ、英國ノ執  
政者ニ管理セラレテ、頗ル壓制ヲ蒙ムルヲ以テナ  
リ、而モ其執政者ノ偏頗ナル、印度人ヲ惠ムト甚薄  
ク、英人ヲ愛スルヲ轉タ厚ク、農業ノ進歩ヲ助クル  
ト雖モ工業ニ至テハ敢テ助クル所ナシ、其意如何  
ト問フニ、製造所ヲ開クハ、印度ニ利アリテ英國  
ニ利ナケレハナリ、故ニ印度ニハ石炭鑛鐵ノ天幸  
アリト雖モ英人ニ妨ケテレテ其幸福ヲ蒙ムルヲ  
能ハサルナリ、英政府ノ狡猾ナル、決メ印度ノ天幸  
物ヲ開發スルヲササシテ、自國ノ石炭及ヒ鐵  
ヲ數艘運輸シ、且印度製ノ織物ノ見本七百餘種ヲ  
造リテ薄上ニ整貼シ、之ヲ英國ノ製造家ニ示シ以

テ印度製ニ模造セシメタリ、加之ナラス其簿冊モ  
固ヨリ己カ用ノ為ニ製シタルモノナルヲ、其費用  
スラ印度ノ租税ヲ以テ拂ハシメタリ、斯ク英ノ利  
器ヲ以テ印度ノ手エヲ雇シテ、一向スラ其製造ノ  
起ラサルヲ希望シタリ、乃チ英政府ノ工業ヲ起  
スノ旨意ナキ亦知ルヘキノミ

印度國內ニ工場ヲ創立セントニハ、先ツ豫メ諸器  
械ノ費用ヲ算定スルヲ及ヒ物價ハ生品ト工錢ト  
需用ト供給トノ度ニ從テ貴賤ヲ為ス等ノ要事ニ  
注意スルヲ最モ至切ナリ、且其器械代金ノ貳割ヲ  
以テ運賃トシ、又其七割五分ヲ以テ工場ノ建築及  
ヒ其他ノ費用トスル等ノ事モ亦要點タリ、今夫眼  
ヲ轉シテ大英ノ形勢ヲ視レハ、鐵山石炭山ノ業ノ

大ナル一他國ノ敢テ及ハサル所ニシテ國勢ノ常  
ニ字内ニ冠タルモ其工業ノ盛ナルヲ以テナリ、  
今ヤ世界ノ開化ハ日一日ヨリ進歩シ、諸貨ノ需用  
ハ月一月ヨリ増殖セリ、因テ吾輩懇ニ願フ萬國靜  
寧ニシテ殷富繁榮ヲ致シ、人心協和シテ百業良美  
ヲ加ヘンコトヲ

### 印度國木綿紡績場及織機場ノ事

夫レ地球上邦國多シト雖モ支那印度ノ如ク多数  
ノ人民ヲ有スルモノハ他ニ未タ見サル所ニシテ  
其人民ノ衣服ハ頗ル粗造ノ木綿ヲ以テ製シタル  
モノヲ用フルスラ一歳ノ費額ヲ分頭ニ配算スル  
所ハ一員ニ付五斤ヨリ貳拾斤ノ多キニ及フナリ  
乃チ印度一國ノミノ費用ヲ算定スルニ一歳ノ費

額六億萬斤或百二十萬ニシテ之ヲ貳億萬人ニ  
分頭スル片ハ一員ニ付三斤ヨリ多カラサルノ額  
ナリ抑スル大額ノ水綿ヲ産出ナサントニハ印度  
ノ如ク博大地ニシテ且工錢モ賤シキ國ニア  
ラサレハ其利ヲ得ルヲ能ハサルナリ然ルニ幸ナ  
ルカナ印度ノ地タル綿花ヲ産スル多キヲ以テ鮮  
ナカラサル所ノ利ヲ得ルハ恰モ水綿ヲ製衣スルニ  
適當シタルモノト云ヘシ蓋シ未タ各國ニハ綿花  
シユ止曲麻類絹布ノ製造ノ如ク大額ノ資本ヲ運用  
スルモノハアラサルナリ  
初ノ印度ノ未タ紡績場ヲ開カサルマ先ツ其綿花  
ヲ英ニ輸送シ英ノ之ヲ水綿ニ製造シテ更ニ印度  
ニ輸入スルヲ須テ需用シタリシカ印度其徒費多

クシテ國ニ利益少ナキヲ以テ更ニ自國ニ紡績場  
ヲ開カンテヲ欲シテ先ツ豫メ其利益ヲ計リタル  
ニ左ノ額ヲ得タリ尤モ初ノ英ニ輸出スル運賃及  
ヒ其他ノ費用ハ然テ其代價ノ一割五分ト見積リ  
又英ヨリ輸入スル運賃ハ其製造品代價ノ一割ト  
見積リテ豫算シタルモノナリ

水綿

襯衣

印度ヨリ英ニ輸送シ英更ニ之ヲ製造シテ又印度  
ニ輸入スルノ間ニ費シタル資本ノ利息ヲ算定ス  
ルニ右代價ノ五分ニ當レリ是ニ由テ算スル片ハ  
水綿ノミニテ三割ノ利益ヲ得タリ元來彼レハ職  
工多ク工錢モ賤ク己ニボシヘイノ工場ニ雇ヒタ

ル者ノ給料ハ一日ニ付男ハ九片女ハ六片ナリ因  
テ思フ斯ク賤直ナルモノヲ雇使スルカ故ニ利ヲ  
得ルヲ鮮少ナラサルナリト杰レモ若シ斯ル工場  
ノ設ケナカツセハ其利益ハ皆英人ノ占ムル所ト  
ナルヘシ又器械ノ割合第二十番ノ紡織本ノ産  
出額ヲ算スレハ一日三「オン」半ナリ凡ソ我量目  
貳拾六分貳  
分五釐又綿花製造ノ時ニ方テ減シタル額ハ品質  
ノ好悪ニ因テ少シク差異ナキ能ハサレモ大抵平  
均ニ割ナリ

ボンベイ水綿製造場及ヒ輸入税ノ事

現今ボンベイ水綿製造場ノ景況ヲ觀ルニ昨今ハ  
勢ヒ漸ク盛大ニ至リテ其製造品ヲ輸出スルニ三  
分ノ税ヲ拂フト雖モ能ク英ノ製造品ヲ壓倒シテ

支那亞非利加亞刺伯波斯ニ輸出スルモノ甚許多  
ナリ元來英國ノ物品ハ其國ヨリ輸出スルニ無税  
ナレモ同價ヲ以テハボンベイノ製品ト競フヲ能  
ハサルナリ故ニ彼令ヒ英國製造品ノ印度ニ輸入  
スルモノ、税ヲ免ルスト雖モ決メ英品ノクメニ  
駐セラル、トナシト信スルナリ抑印度支那二國  
ノ如キ衆多ノ人民一トシテ水綿ヲ需用セサルヲ  
ナシ而シ綿花恰モ好ク印度ノ地質ニ適ヘルカ故  
ニ許多ノ綿花ヲ得テ直キニ之ヲ製造シテ其土地  
ニ賣却スルヲ得且近來ハ其製造法ヲ日ニ改良シ  
テ的切ナル方法ヲ以テ施行スルカ故ニ其占ムル  
所ノ利鮮少ナラサルナリ實ニ是レ印度工業進歩  
ノ勢ヲ示スニ足ランカ

印度國水綿製造所織物器械費用表

紡綳機

紡織，數織機，割合 紡織，定本，價六時間，產出額

壹萬本 第拾 貳磅拾五斯令 貳萬八千斤

全 第貳拾 貳磅五斯令 八片 壹萬貳千五百斤

紡綿器

紡織，數織機，割合 紡織，定本，價六時間，產出額

壹萬本 第貳拾 壹磅拾四斯令 貳片 壹萬貳千斤

全 第參拾 壹磅九斯令 八千斤

全 第四拾 壹磅七斯令 八片 五千七百四拾斤

全 第五拾 壹磅六斯令 八片 四千貳百斤

全 第六拾 壹磅五斯令 拾片 三千百六拾六斤

織機

織機百箇

貳千七百八拾三磅

但紡織其他一切，附屬品共

紋更紗製造器械，豫算

漂晒器械 注管并給車付 千八百七拾磅

印刷器械 貳組 千三百三拾八磅

色付印刷器械 一色ヨリ四色ヲ總テ 貳千七百貳拾磅

繪具製造器械 銅製及三重繪具銅製 百七拾磅

齒漆器械 一式 貳千五百三拾磅

仕揚器械 一式 千五百拾磅

鐵車付蒸氣器械 驗氣針付 百八拾磅

施盤或錠鉋 一本等器具類 八百磅

蒸氣錐或筒 但三諸器械三蒸機 千四百六拾磅

以上諸器械，附屬品 并銅軸 千貳百五拾磅

合計壹萬四千三百貳拾八磅

以上諸器械場、建家

平方二万九千四百五十三アヘー止  
立方五十七萬九千九百五拾アヘー止

シエト亞麻製造所ノ豫算

印度及ヒ他國ニ於テシエトヲ消費スルノ額甚少  
十カラス蓋シ其製造ハ木綿ニ亞テノ緊要物タリ  
ベンガル地方ニ於テハ殊ニ多ク之ヲ種藝シタリ  
而モ其種藝ノ方法タル頗ル容易ニシテ且産額モ  
亦他物ニ比スレハ居多ナリ英國ニテ此種藝ノ事  
ヲ知りタルハ今ヲ距ル僅カニ數年前ノ一ナリシ  
カ木綿類ト等シク蒸氣器械ヲ用ヒテ之ヲ紡織ス  
トヲ致シテヨリ其産額漸ク増加シタリシエトハ  
専ラ袋敷物類ヲ製スル為メノ用トナリタルモノ  
タリ而メ其色タル百種ニシテ或ハ漂晒シ或ハ着

色シ或ハ漂晒セス青色ノマ、ニテ織リタルモノ  
アリ

シエト製袋器械ノ豫算

織機百五拾組

紡織三千零七百八  
拾其他一切附屬品

四萬千七零壹磅

建家

平方七萬零七百アヘー止  
立方八萬四千八百アヘー止

シエト製造場一歳ノ出納豫算

係一千八百七十三年調  
査

出金ノ部

壹萬五千磅

幹事副官器械師各志費宛以上歐洲人  
職工八百人ハ印度人ノ給料

七千五百磅

石炭 毎週ノ費用額六十拾頓  
但シ壹頓有五十拾斯合ノ割合

三千三百七拾五磅

脂 器械用

四百五拾磅

租稅 民賣保險金ノ額

千五百磅

器械ノ減損額

六千八百四拾磅

資本金七百五十磅ノ利息  
但シ壹ヶ年九分ノ割合



貳萬七千磅

「シ」ト 費用額 每週四拾五磅  
但シ「キ」額ニ日拾貳磅ノ割合

合計六萬千六百六拾五磅

納金一部

七萬貳千七百五拾磅

「シ」ト 産額織機百五十組ニテ九万九千七百五拾「ヤ」ド  
但「ヤ」ドノ量目平均十六「ヤ」ドニテ「ワ」ドノ價三片半ノ割合

右純益凡ソ壹割六分

但「キ」額ニ日純益三磅ナレバ商況盛ナルハ五磅ニ當ルナリ

縮布製造場ノ事

「カ」ルキエツタ「ヨ」リ輸出スル屑繭壹斤ノ價凡ソ壹磅貳  
斯令ナリ而メ其輸出額甚多ク近来新タニ器械ヲ  
備テ之ヲ製シタルニ一層多キヲ加ヘ精繭ヲ製スルヨ  
リモ却テ鴻益ヲ得タリ英國ニ於テ屑繭ヲ以テ  
壹斤ノ糸ヲ製スルニ其減消額ヲ算入シテ之ヲ計  
ルニ四斯令六片ヨリ五斯令ニ及フナリ印度モ大抵

同シ割合ナリ乃チ每週屑繭器械ヨリ産スル所ノ  
額ヲ觀レハ「ハ」ンブルファイニ三百斤「ハ」ンブルヘビ  
「ハ」志組ニ付五十「ヤ」ドヨリ七十「ヤ」ドナリ  
而メ五十「ヤ」ドノ方ハ布巾貳十六「イ」ンチヨリ  
貳十八「イ」ンチニシテ其量目五斤ナリ故ニ壹百箇  
ノ器械ヲ設クルハ五百斤ノ糸ヲ要シ而メ其五  
百斤ヲ要シタル餘ノ額ハ之ヲ市場ニ賣却スルナ  
リ

屑繭器械場ノ建築地

平方壹万八千九百「フ」ロート

精繭器械場

壹万六千八百「フ」ロート

織機及其他器械ノ建築地

平方五万壹千「フ」ロート

精屑兩繭ノ器械一式ノ費用豫算

合計貳万零三百五十六磅

砂糖製造場ノ事

砂糖製造場ノ廣狹ハ其耕地ノ大小ニ從テ設ケサ  
ルヘカラス此製造ハ時トシテ晝夜兼業スル一  
レ一歳ノ中間断ナク行フモノニアラス自カラ  
期限アリ凡ソ一エークル我四段十ハヨリ産スル  
所ノ甘蔗ノ量目ハ地質ト培養ト氣候トニ因テ異  
ナルト雖モ大抵貳十磅ヨリ三十磅ニ及フナリ  
最良ノ甘蔗ヲ分析スルニ百分ノ七十ハ水ニシテ  
其貳十ハ砂糖其十四ハ他料ナリ實地ニ就テ之ヲ  
經驗スルニ甘蔗ヨリ液汁ヲ得ル一百分ノ内八十  
分ヨリ多カラスシテ而メ其液汁ヨリ砂糖ヲ得ル  
一割ヨリ一割貳分迄ナリ又其砂糖一加倫凡カ

貳升ヨリ冰糖壹斤貳分五厘ヲ得又一エークルヨ  
五合ヨリ砂糖ノ額ヲ計算スレハ四千斤ヲ得ルナ  
リ産スル砂糖ノ額ヲ計算スレハ四千斤ヲ得ルナ  
レト培養ノ充分ナラサルカ或ハ液汁方法ノ悪キ  
片ハ其得ル所貳千六百斤或ハ貳千斤ニ過キサル  
ナリ蓋シ之ヲシテ良美ニ進マシメンニハ製造車  
及蒸氣器械ヲ修改スルニアリ儲製造車ハ十二時  
間ニ六頓ヲ絞榨シテ七割ハ割ノ液汁ヲ得ルナリ  
液汁ヲ得タル後其絞ノ糟ヲ乾燥シテ薪料トスル  
片ハ乾燥スルノ際量目ノ半ヲ減スレトモ其薪料  
貳斤ヲ以テ石炭壹斤ノ用ヲナスナリ  
總テ器械及庭家鐵家根其他一切附屬品ノ費用ヲ  
貳万磅トス此器械ニハ銅製ヲ多ク用ヰルカ故ニ  
費用モ從テ多シ

冰糖器械一式ノ費用  
建家

九千三百九十磅  
平方六千四百四十ポンド  
立方壹万貳千五百ポンド

鑄鐵場及製鐵場ノ事

鐵造製作一式器械ノ費用

壹万貳千七百五十壹磅

英國絞油車ノ事

絞油車ノ二重機関ヲ運輸スルニ凡ソ十負ヲ要ス  
ルノミナラス大抵晝夜ヲ兼業スルナリ印度全國  
ノ絞油器械ノ費用ヲ算計スルニ凡壹万磅ニシテ  
毎日十時間ノ運轉ニテ一今年ニ麻仁ヲ榨ムルノ  
額九千三百六十ポンド英量ナリ又英國ニ  
於テ製スル麻仁綿種葡萄ノ益ヲ計ルニ壹万三千  
五百磅餘ナリ

器械一式ノ費用

四千三百拾四磅

油槽ハ器械ヲ滑カニスルタメノ用ヲナスナ  
リ故ニ器械ノ増加スルニ從テ其需用自カラ  
増スノ理ナリ

器械場建家

平方三千ポンド  
立方三千七百ポンド

諸小器械費用ノ豫算

六百五十磅	綿打器械貳十組	<small>但ニ貳重運轉ニシテ每一 時間貳十斤以上ヲ製ス 貳十五斤製一式</small>
千貳百磅	絞油器械壹組	<small>每一時間三ポンド ト半ヲ製ス</small>
三百五十磅	穀物製造車貳組	<small>長ヲ貳十五ポンド 幅十四度</small>
四百四十磅	伐財器械壹組	<small>把三挺鉸付毎日 四千斤ヲ洗フ</small>
三百磅	毛洗器械壹組	
貳百貳十五磅	乾毛器械壹組	
八百磅	綯繩器械	<small>貳十五馬力</small>
六百磅	蒸氣鐘	<small>以上ニ記載レタル諸 器械ノ運轉ニ供ス</small>

合計四千五百六十磅

五千八百十磅 鍊化石製造器械一式ノ費用

